

体 育 科 学 習 指 導 案

平成30年2月8日(木) 第3校時 (体育館) 2年3組 指導者

I 単 元 ボンバーゲーム

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

誰とでも仲よく、勝敗を素直に認めながら、互いに楽しくボンバーゲームに取り組む態度

①知識・技能

ボンバーゲームの行い方についての知識や、ボールを投げたり捕ったりする動きとボールを持たせないときの動き

②思考力・判断力・表現力等

簡単な攻め方を工夫する力、動きのよさを見付ける力、それを言葉や動きで友達に伝える力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

E ゲーム

(1) 次の運動の楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。

ア ボールゲームでは、簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをすること。

(2) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。

(3) 運動遊びに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

(3) 本単元の価値

本単元は、「2の3ボンバーゲーム大会」に向け、ゲームの中で相手のいないところへボールを投げたり、落下点に動いてボンバーゲームに取り組む学習である。その価値は以下のとおりである。

ボンバーゲームは、ネット越しにビニール袋製のボールを投げ合い、空いているスペースにボールを落としたり、落とさせないように守りながら、相手チームと得点を競い合うことに面白さや楽しさの中心がある。また、ネットで区切られたコートの中で、相対するチーム同士が攻防を組み立てるため、相手に邪魔をされたり、相手と接触したりすることがないという構造的特性がある。そのため、自分の思い通りにプレーがしやすくなり、ボールを相手コートに投げたり、相手が投げたボールの落下地点を予測して動いて捕ったりして、ペア対ペアの攻防によって得点を競い合うことの楽しさや喜びに触れ、進んで取り組むことができる。

この教材化にあたり、ビニール袋製のボールを使用する。このボールはビニール袋に緩衝材を入れ結び目でしばることで、持ち手がある爆弾の形のようになり、子どもたちは持ち手の部分を確実に握って簡単に投げることができる。また、結び目があることで、ボールの軌道が見えやすくなる。ネットの高さは170cmにし、子どもたちが投げるボールの軌道を山なりになるよう

な高さにする。そうすることで、腕を肩より上に挙げた状態から投げるようになり、肘を挙げて投げるという投動作を身に付けることにつながる。また、落下速度がゆっくりなボールを用いることで、落下地点の予測がつきやすく、落下地点に動いてボールを捕る動作を身に付けることができる。

コートについては、サイズを縦8 m×横5.6 mにし、コートを4つのグリッドで分ける。そして、ゲームをペア対ペアにすることで、空いているスペースが2つ生まれ、子どもたちは空いているスペースを見付け、そこにボールを投げるという思いをもってゲームに取り組むことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「シュートプレルボール」で、ネット型ゲームの特徴に合った作戦を立てながら、プレルしたり、シュートしたりして、シュートプレルボールができる。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、2年「ボール投げゲーム」において、相手のいない位置からのシュートやタイミングをずらしたシュートの学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① ボール投げゲームの行い方を理解し、相手のいない位置からのシュートやタイミングをずらしたシュートができるようになってきている。このような子どもたちが、ボンバーゲームの行い方を理解できるように、全体で運動の行い方を共有する活動を設定する。また、空いているスペースに投げたり、落下地点に動いて捕ったり、それらを組み合わせた動きをしたりすることができるように、動きをアドバイスし合う場を設定する。
- ② 相手のいない位置からのシュートやタイミングをずらしたシュートの動きのよさを踏まえ、遊び方を工夫することができるようになってきている。このような子どもたちが、投げる、捕る動きのよさを踏まえ、アドバイスをし合うことができるように、ボールの軌道が見えやすいビニール袋製のボール、4つのグリッドに分けたコート、ネットの上にゴムを張った補助ネットといった動きが視覚化できる教具を用意する。
- ③ ボール投げゲームにおいて、誰とでも仲よく、勝敗を素直に認め合いながら、互いに楽しくゲームをすることができている。このような子どもたちが、同じグループの友達と協力して活動に取り組んだり、友達のよい動きを見付けたりできるように、役割分担をしたり互いの動きを見合ったりする男女混合のグループを編成する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい チームで選んだ攻め方の動きが視覚化できる補助ネットで動きを比較し、動きの規準で動きを評価して繰り返し練習することで、空いているスペースにボールを投げるができる。
- 2 準備 ビニール袋製のボール、補助ネット
- 1 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手前に投げる作戦を選んだよ。手前に投げる作戦で得点が取れるようになりたいな。 ・自分たちが選んだ攻め方が上手くいくように友達とアドバイスし合いながら練習しよう。 <p>2 チームで選んだ攻め方を試す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手前に投げる時は、素早くボールを投げるといいのだったな。補助ネットのゴムの下を通るように投げよう。 ・ボールがゴムの上を通っていたよ。手前に投げるのならばゴムの下を通るように投げるといいよ。 ・今の動きは丸だと思うよ。投げる前に2番は空いていたから、しっかりオープンコートに投げられていてよかったよ。 ・友達のアドバイス通りに投げたら得点を取ることができたよ。 <p>3 ゲームに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くに投げた時に、前にオープンコートができていたよ。前に投げる作戦を成功させるために、最初に遠くに投げてから手前になげるようにするといいよ。 ・遠くに投げてから前にできたオープンコートにボールを投げて得点を取ることができたよ。自分でオープンコートを見付けて、そこにボールを投げて得点ができると楽しいな。 <p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のアドバイスを聞いて、遠くに投げてから前にできたオープンコートにボールを投げたら作戦が成功したよ。 ・見つけた動きのよいところを使って、大会でも作戦を成功させたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を想起出来るように、前時に自分たちで選んだ攻め方を問いかける。 ○「選んだ攻め方を使ってオープンコートにボールを投げよう」という本時の見通しをもつことができるように、本時できるようにしたい動きを問いかける。 ○選んだ攻め方の動きと自分たちの動きを比較することができるように、ネットの上にゴムを張った補助ネットを用意し、繰り返し試すよう促す。 ○選んだ攻め方の動きと自分たちの動きを比較することができるように、観察する人を設定し、ボールの通過位置を伝えるよう促す。 ○動きを判断することができるように、動きの基準を提示し、評価を友達に伝えるよう促す。 ○選んだ攻め方の動きができるように、アドバイスし合いながら練習に取り組んでいる子を賞賛する。 ○ゲームの中で選んだ攻め方の動きができるように、アドバイスするよう促す。 ○選んだ攻め方の動きができたことを実感することができるように、空いているスペースにボールを投げ、得点につながった子を賞賛する。 <div data-bbox="802 1429 1394 1637" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">チームで選んだ攻め方を使って、空いているスペースへボールを投げるができる。</p> <p style="text-align: right;"><行動①></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○選んだ攻め方の動きの出来映えを振り返ることができるように、振り返りの視点を提示して、チーム内で発表するよう促す。 ○次時への見通しをもつことができるように、選んだ攻め方で大会に取り組んでいくことを伝える。

指導と評価の計画（全7時間）

目標	みんなで仲よく、ボールの投げ方や捕り方、簡単な攻め方を工夫しながら、ボールを捕ったりして、ボンバーゲームがきる。			
評価 規準	① 知識・技能)ボンバーゲームの行い方を知り、ボールを遠くやねらったところに投げたり、捕ったり、捕球後に素早く投げ返したりする動きができる。 ②思考力・判断力・表現力等)ボールの投げる動き・捕る動きの良さを見付けたり、簡単な攻め方を考えている。 ③学びに向かう力・人間性等)きまりを守り誰とでも仲よく、勝敗を素直に認めながら、互いに楽しくボンバーゲームに取り組もうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つか む	1	○試しのボンバーゲームを行い、共通のめあてと自分のめあてを立てる。 ・共通のめあて 「2の3ボンバーゲーム大会に向け、ボールの投げ方や捕り方、ゲームのきまりを工夫して、ボンバーゲームを楽しもう」	○具体的なめあてが立てられるように、ボンバーゲームのきまりややり方を基に、必要最小限のルールで繰り返しゲームを行う活動を設定する。	◇試しのボンバーゲームに取り組み、感想を基にした具体的なめあてが立てられている。 <学習プリント③>
追 求 す る	1	○空いてコートにボールを投げる動きのよさを見付け、ボンバーゲームに取り組む。	○空いてコートにボールを投げる動きのよさを見付けることができるように、「ボールが通る道」「肘の高さ」という観点を提示し、試す役と見る役を設定する。	◇肘を高く上げ、山なりに投げることで遠くに飛ばすことができるという投げる動きのよいところを見付けている。 <学習プリント②>
	1	○相手のいないところへボールを投げる動きのよさを見付け、ボンバーゲームに取り組む。	○空いてのいないところに投げる動きができるように、コートの数字を言葉に出しながら、繰り返し投げる場を設定する。	◇ねらったところに向かって、声を出してボールを投げることができる。 <行動①>
	1	○ボールを捕るための動きのよさを見付け、ボンバーゲームに取り組む。	○ボールを捕るための動きのよさを見付けることができるように、「膝」「ボールの落ちる場所」という観点を提示し、繰り返し移動をする活動を設定する。	◇軽く膝を曲げて捕る構え、ボールの落下地点に体を動かすことができる。 <行動①>
	2	○グループで簡単な攻め方を考え、ボンバーゲームに取り組む。(本時2/2)	○自分たちに合った攻め方を選ぶことができるように、幾つか攻め方の例を提示し、繰り返し挑戦する活動を設定する。 ○自分たちで考えた攻め方を成功できるように、攻め方を繰り返し挑戦する活動を設定する	◇自分たちに合った攻め方を選んでいる。 <行動②> ◇自分たちが選んだ攻め方で、攻めることができている。 <行動②>
ま と め る	1	○「2の3ボンバーゲーム大会」で今までのポイントを踏まえたボンバーゲームに挑戦し、学習のまとめをする。	○学習の成果を感じられるように、これまでに学習してきたボールを投げる動きや捕る動き、きまりを守り仲よく取り組めたことなど、これまでの取組の様子や頑張りを振り返る場を設定する。	◇決められた攻め方で得点を競い合い、勝敗を素直に受け入れながらゲームに取り組んでいる。 <学習プリント③>